記者懇談会の記録

日　時	令和３年５月27日（木）15：30～16：28
場　所	岩見沢市役所 ３階 第１・第２会議室
記者数	６人

1　成人の日記念式典後の会食によるクラスターの発生について

（市長）

はじめに「成人の日記念式典後の会食によるクラスターの発生について」ですが、このクラスターの発生の概要については記載の通りで、すでにご案内、ご承知の通りかと思います。そこで式典以降の経過について改めて私からご説明をさせていただきたいと思います。

資料の方には時系列で整理をしておりますので、ご覧ください。

成人の日の記念式典、5月2日に行いましたが、5月6日に教育委員会に対し、岩見沢保健所から成人式の終了後に市内の飲食店で会食を行った参加者から新型コロナウイルス感染が複数確認される可能性が高いとの連絡を受けたところです。併せて、保健所と連携をした対応についての協議を早速行ってまいりました。

具体的には、5月2日の夜から翌3日の未明にかけて、SNSでの呼びかけにより大規模な会食が行われたとの情報がありました。参加者はもとより、濃厚接触者の特定が困難なことから、式典出席者全員の連絡先を把握している教育委員会が、成人式後の行動確認とPCR検査の勧奨、陰性者への結果告知と陰性者の健康観察、約2週間ですが、この2点に対する協力要請を受けたところです。

5月7日から成人式参加者に対する電話連絡を開始し、検査対象となる方には、翌8日から保健所で実施する集団のPCR検査への勧奨を行いました。

5月9日には北海道の正式な発表前ではありましたが、その時点で知り得る情報をいち早く市民の皆様へお伝えするために、市のホームページにメッセージを掲載しました。

また、同じく5月9日の18時から北海道の記者会見が行われまして、本件が成人式後の会食によるクラスター19名として公表されたところです。

翌10日の月曜日ですが、新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開きまして、その後に会見を行い、私が対応させていただいたところです。

11日火曜日、検査対象者への集団PCR検査が終了し、引き続き、検査結果が陰性だった160名の健康観察を17日まで実施しました。その結果につきましては、岩見沢保健所への報告を終えたところです。

3の参加者の居住地ですが、式典の参加者は424名です。岩見沢市内の在住者は325人、道内の在住者が83人。このうち札幌市が28人、札幌市以外が55人、そのほか道外の在住者は16人でした。

これまでの市の対応状況ですが、5 月 7 日から 9 日までの 3 日間、教育委員会の職員、延べ人数にして 43 人で、新成人 416 人への行動確認を実施しています。保健所で直接対応した方が 8 名いらっしゃいますので、出席者総数 424 名です。

行動確認の内容ですが、「成人式当日に家族以外と会食をしたか否か」です。会食していない場合は感染の心配はなく、検査の必要はなし。また会食していた場合は、PCR 検査を受けることができるという説明を行いました。会食の内容について、人数や飲酒の有無など状況は様々でしたが、市としては必要性の部分も含めて判断ができませんので、8 日と 9 日の 2 日間実施される検査を受けるように勧奨を行ったところです。市外・道外にお住まいの方には、保健所から居住先の保健所と調整をしていただくようお願いをしました。

また、当初 PCR 検査を 8 日、9 日の 2 日間で予定していましたが、9 日時点で連絡が取れない方もいたために、電話連絡の継続と併せて 10 日と 11 日の 2 日間追加しまして、保健所で PCR 検査を行いました。

さらに、5 月 10 日現在で連絡が取れなかった方、21 名いらっしゃいましたが、21 名に対しては文書を発送し、連絡の要請をしました。5 月 15 日までに全員と連絡が取れたところです。

5 月 17 日には健康観察の対象者 160 人に対する健康観察期間が終了し、結果につきましても保健所に報告を終えております。

また感染の状況ですが、5 月 26 日現在、本件に係る感染者は岩見沢市外の方も含めて 43 人、内訳としましては、新成人 34 人、友人 4 人、飲食店従業員 5 人で、5 月 16 日、日曜日の北海道の発表を最後に人数に変更はございません。

＜質疑応答＞

（北海道新聞）

今回、自粛を呼び掛けて、最大限のことはご対応を、市としてされたという認識でいるのですが、結果的に人が、お友達同士集まってしまったことによって、懐かしい顔ぶれもあったのでしょうが、飲食店で会食するという機会につながってしまったということですが、今後例えば、営業権のこともあるので飲食店の方には協力というところが精一杯なのかなと思うのですが、こういうイベントをきっかけに会食につながる可能性がある際に、地元飲食店さん、あるいはその業界団体に対して何らかの協力呼び掛けのようなことは、ご検討されるのでしょうか。

（市長）

ルールを守った、少人数で感染防止対策を徹底していらっしゃるお店で、ルールを守って飲食していただくことについては、それは当然認められるものだと思っていましたが、今回の行われた飲食というのが、報道関係の公表しか私も承知しておりませんけども、例えば 40 名程度の飲食を伴う会合で、出入りが自由で朝方まで、出入りを含めると 100 名規模で、マスクを外してのカラオケやお酒の飲み回しもあったということは、各紙で報道されています。そういう私どもの要請とか、あるいはその当時の社会のルールとして、求められているものに反して行われるという

ことについては、新成人の善意というかモラルですよね、モラルに頼らざるを得ないというところがまさにジレンマですが、ある程度大規模な会場については、私ども事前にいろいろ状況などもお聞きして把握はしていましたが、それに漏れるような形で行われているということもありましたので、今後は成人式の開催の有無も含めて、やはり慎重に判断せざるを得ないということと、先般、各飲食業関連の代表の方ともお会いして意見交換をしたのですが、そういったことも含めて今後、お互いに連携をした感染防止対策に取り組んでいきたいということで考えています。

岩見沢市に限らず、道外でもいろいろとこういう事例が出てきておりますので、共通の課題として今後の対応をやはり慎重に判断しなければならないと思っています。

（プレス空知）

数字の確認ですが、この資料を見る中で最終的に出席した 424 人のうち、PCR 検査を受けた方というのは 160 人でいいのですか。それとも陽性だったという数字を含めて 198 人が受けたということになるのでしょうか。その辺の数字だけ教えてもらえませんか。

（市長）

保健所で PCR 検査を実施していますので、岩見沢市はその検査を受けた人数については正確には把握はしていないのです。どういうことかというと、私どもの教育委員会から電話連絡を受けた方の数はここに書いてある通りですけれども、その方が実際に検査を受けたかどうか、今回こういう事例もあったのですが、例えば私どもの電話連絡の際には、飲食はしていないとお答えになった方が、実は飲食をしていましたということで後日保健所に連絡を取ったり、あるいは報道を見て事前にすぐに保健所に連絡を取っていたりだとか。ですから検査を受けた数というのはわからなくて、その 160 名というのは健康観察が必要だということで保健所から連絡をいただいた方の数が 160 名ということになります。

（プレス空知）

ということは市で把握している数、PCR を受けた数として把握している数字というのは 160 でいいのでしょうか。

（市長）

違います。

（プレス空知）

それを聞きたいのですが。

（市長）

それは把握できないと先程お答えしたとおりで。

（プレス空知）

保健所からきている数字の中で捉えるとすれば、PCR 受けただろうというのは…

（市長）

先程申し上げた事情で、PCR 検査を何名受けたかについては私どもで把握をしていないのです。私どもで把握している数字で、足し算引き算して、受けた数はこれだけということも実は導き出

せないという。
（プレス空知）
ここにある数字だけで見ると160人と新成人の陽性34人を足した数字は少なくともPCRを受けたというふうに捉えてもいいのでしょうか。という聞き方では。
（市長）
新成人の陽性者も市内の方もいれば道内の方もいるし、道外の方もいらっしゃるので、その正確なところはやはりわからないです。それを足してそれが受けた数になるかどうなのかというのは実は確認が取れない。
（プレス空知）
なるほど、わかりました。ではこの160人、5月17日に健康観察が終了した160人ですけれども、これはこの3の参加者の居住者の内訳の中の岩見沢市の部分の325人に対しての160というふうに捉えていいですか。それともこれはあくまでも…
（市長）
そうは限りません。
（プレス空知）
ということですね。札幌市以外のこの55人の中からいるかもしれないし、ということですね。
（市長）
はい。参加者のうち、最終的に160人の健康観察を行ったということになります。
（プレス空知）
参加者ということでいくと、新成人ということでいいのでしょうか。
（市長）
新成人です。
（プレス空知）
はい、わかりました。あともうひとつ、関係者の状況43人の内訳、新成人34友人4従業員5ですが、これは例えば3のその居住地の内訳に照らしたときに新成人全員が岩見沢ではないと思いますが、そこの内訳はわかりますか。
（市長）
それはわかりません。
（読売新聞）
この件で、市が判断できないと思うのですが、道の方からこの件のクラスターはもう終焉というような話は出ているのでしょうか。
（市長）
いえ、そういうお話は聞いておりません。市としては5月16日が最終公表で、その後感染者が公表されておりませんので、このまま推移をしてほしいということで、終息か否かというのは保健所の判断になりますので、現段階ではまだそういう報告は受けておりません。

2　新型コロナウイルスワクチン接種の進捗状況について

（市長）

ワクチン接種の進捗状況ですが、はじめに、当初3月の段階では8月23日までの完了を予定して、国にも計画を上げていたところですが、65歳以上の高齢者のワクチン接種につきましては、7月までに接種を終えたいという話も出ておりましたし、その以前から、できるだけ接種率を上げた中で、何とか期日を前倒ししたいということで、作業に当たっていたところです。具体的にその方向でいろいろ準備を進めまして、接種の加速化を図るということで、現段階では7月末の完了を予定しているところです。

次に記載の2、7月末までに接種を完了させるための対応ですが、2点ございます。1点目は、市立総合病院の外来を4日間休診しまして、「イベントホール赤れんが」「ホテルサンプラザ」「岩見沢平安閣」を会場に約3,000人規模の接種を行う。接種回数にしますと約6,000回の大規模接種を行うこととしています。申込みは、既に5月21日金曜日から開始しておりまして、1回目の接種と2回目の接種は、同一の会場と時間で申込みいただく必要がありますが、今の段階でもう既に、6月の予約は全て埋まっているという状況です。

また、交通手段の確保が難しい遠隔地にお住まいの高齢者の方には、あらかじめタクシー利用券をタクシーの基本料金分550円券4枚お送りしていますが、それとは別に、シャトルバスを市内5路線で運行を予定しているところです。このシャトルバスは、予約は不要ですが乗車人員の制限をどうしても考慮することから、定員を超えた場合には、臨時便又は次の便にご乗車いただく場合もありますので、ご家族等の送迎も含めて対応をしていただきたいと思います。

加えまして、接種会場の駐車場にはそれぞれ限りがありますので、先程申し上げましたタクシー利用券やさらには公共交通機関のご利用をお願いしたいと考えています。

なお、市立総合病院が休診となる4日間につきましては、発熱外来、透析外来、救急は通常通りの診療を行うこととしています。

2点目ですが、岩見沢市医師会の協力を得まして、土曜日、時間外、休診日の接種をお願いしています。準備が整った医療機関から順次予約枠を増やしているところです。ただこれも、既に6月分までは予約を完了している状況で、今の具体的な作業としては、市立総合病院で行う大規模接種の人数を2クール目から増やすこと、さらには、医師会の皆さまにお願いをしている個別接種の人数を増やしていただく、それを方向性についてはおおむね了解を頂きまして、さらに予約枠を増やして対応したいと考えています。

次に、3の予約状況ですが、4月19日から順次接種を開始しております高齢者施設の入所者を除いた5月26日現在の予約者数は16,693人、予約率に直しますと59.5%となっています。なお、それぞれの医院で入通院患者のみ接種を行う医療機関が17医療機関ございますが、直接医療機関で予約を行うため、先ほど申し上げました数字には含まれていませんので、実質的には予約者はさらに多くなると思います。

それから、4の接種の進捗状況ですが、昨日26日現在における65歳以上の接種者は、1回目の接種が終了している方が2,074名、6.9%、2回目の接種が終了している方が296人、1.0%となっています。なお、高齢者施設の入居者につきましては、既に2回目の接種を終了した方が実際には資料で取りまとめている以外にもいらっしゃいまして、まだ集計には含まれていないということです。アバウトに申し上げますと、高齢者施設の入居者で接種を受けられた方が2,000人いらっしゃいます。その約半数程度は整理を終えて、こちらの接種者にカウントしておりますが、約1,000名がカウントされておりませんので、現実としては、あくまでも推計となりますけれども、岩見沢市の高齢者の接種率は現段階で10%程度にはなっているかと思います。

最後に新たな取り組みといたしまして、5の高齢者の予約サポートです。ご自身で電話、あるいはインターネットの予約が困難な75歳以上の高齢者の方に代わりましてインターネット予約を受け付けるサービス窓口を新たに開設します。期間は6月1日から30日までの土・日・祝日を除く毎日、午前9時から午後3時まで。

ご予約は、本人確認が必要ですので、電話での予約は受け付けることができません。予約の済んでいない75歳以上の方を抽出して、個別にご案内しますので、そこで漏れは起きませんので、対象者以外の方による混雑が起きないように、会場については、公表を控えさせていただきたいと思っています。75歳以上の高齢者の方で、現段階で予約が済んでいない方は、4,125人と把握しています。この方々に直接ご案内するということでございます。

今現在の岩見沢の接種体制の話を改めて申し上げますと、市立総合病院のスタッフで行う大規模接種を第2クールに3ライン増設する予定ですので、約400名の増、それから集団接種の枠を増できるように検討中であることと、市内の医療機関の増が800名から1,000名程度を確保できる見通しですので、全体としては、接種率75%程度の体制は既に整っているかと思います。これをさらに積み上げていく作業をしています。市内の医療機関あるいは大規模集団接種の予約状況等をみると、さらに上がっていくのではないかと思いますので、具体的な検討作業に着手していきます。

各自治体で考え方がそれぞれなので何とも言えないのですが、接種率を下げて7月に終わらせるという計画の所もあれば、私どものように接種率を上げながら尚且つ7月末を目指すというところもあって、何とも難しいところかもしれませんが、岩見沢市は接種率をさらに上げても対応できるような接種体制を構築して、7月末までの完了を目指すということでございます。

ただ、普段かかりつけ医にかかっている高齢者の方は、やはりご自身の体のことを良く知っている、かかりつけ医で接種を受けたい、従って、遅くなってもいいからかかりつけ医で受けたい、という方が結構いらっしゃるという報告は受けているところです。

＜質疑応答＞

（北海道新聞）

接種の関係で2点ほど教えてください。まず1点目は、接種体制の方は増強して7月末完了に

向けて体制を整えてらっしゃるというお話ですが、現時点で、7 月末完了を達成するために課題となる部分としてはどのようなことを認識されていらっしゃいますか。打ち手の問題であるとか、あるいは予約システムをスムーズにいくようにするとか。

もう１点は、予約サポートの関係で、4,125 人の 75 歳以上の方に市から連絡をされて、日割りであなたは何日、あなたは何日という形で来ていただくようなスタイルになるのでしょうか。予約サポートのこともう少し詳しく教えていただければと思うのですが。

（市長）

接種率が高くなるだろうという想定をしていますので、それに向けての体制構築ということで、現段階では接種体制については特に岩見沢市の医師会の先生方のご協力を全面的に頂いておりますので、それはある程度達成できるのだろうと思っています。また、大規模集団接種ですが、7 月 2 日と 28 日に行う分を、ラインを増やしまして、3,000 名程度の予定を約 3,400 名まで接種を完了したいということです。

接種の予約状況によってはさらに増強する必要性があるので、そういった意味では、市内の医療機関、医師会の先生方のご協力を頂いて、1 日に少しでも接種量を増やしていくことが、最終的に接種の完了時期を少しでも早くできることと、それから、接種率も上がるということになりますので、その 2 つの課題に対して、今現状でこのような取り組みをしています。

ただ、接種率、予約状況、接種を受けたいという方の状況によっては更に接種体制を工夫して増やしていきたい。現段階では先ほど申し上げたとおり、大規模集団接種も含めて 75%程度の接種は完了できますが、さらに上がったことも想定して、今作業を進めているところです。

予約も岩見沢市は当初からコールセンターに関しては 50 回線を確保してとか、インターネットの方もサーバーは独自に確保して行ったのですが、ただ、どうしても NTT の回線制限ですとかの問題があって、繋がりにくいということで、苦情をいただいた方も多数いらっしゃいましたし、大変ご迷惑をおかけしたと思いますが、現段階では 1 日あたり約 1,400 人の予約をインターネットと電話を合わせて完了していまして、昨日には 7 月までの接種で 3,000 人分くらいの空きがありましたが、今日の段階では 2,000 人分を切ってきている状況ですので、ご不便はおかけしていますが、予約については比較的スムーズにいっているかと。今そこで、接種体制を増強することで、順次コールセンターとインターネットでの予約を増やしていくことになろうかと思います。

2 点目が、予約サポートですけれども、曜日を決めてとは考えておりません。1 日から、9 時から 15 時まで、この会場で行っているので、接種を希望される方でまだ予約が出来ていない方はお越しいただいて、私どもの方でサポートをして、予約を完了するということをしたいと思っています。これは 4 つのラインでやる予定です。

（北海道新聞）

この時間内ならご自由にということでしょうか。殺到はそこまでにはならないでしょうか。

（市長）

ご自由にということです。会場は 5～60 名は常に距離を取ってお待ちいただけるスペースも確

保しておりますし、予約自体はインターネットの予約でそんなにお時間は取らないので、出来るだけスムーズにお待ちいただかないように予約のサポートをしていこうと思っています。

（読売新聞）

接種の関係で、コミュニティプラザでやる集団接種は、だいたい MAX 何人ぐらいの接種を想定していて、大規模集団接種というのは、MAX どれくらいを想定しているのか、あとは医師、看護師なのですが、大規模集団接種に派遣される人数の目安について教えてほしいのですが。

（市長）

コミュニティプラザの接種体制の方からですが、コミュニティプラザでは 1 日あたり 150 人程度の接種を予定しています。それに対して 30 名くらいのスタッフで対応しています。6 月 25 日が集団接種の初日でしたが、既に報道されていますけれども、144 名の方が接種を行ったことになると思います。

大規模集団接種は、1 日 1,500 人、7 月中に 2 回の接種が終わる。当初は 7 月にも 1,500 人の 2 回の接種が終わり、合わせて 3,000 名、接種回数で 6,000 回を予定しておりましたが、先ほど申し上げたとおり、予約状況がかなり進んでいることを踏まえて、第 2 クール、7 月の 2 日と 28 日に行う大規模集団接種につきましては、378 人の増を予定しているところです。1 回当たり 1,800 人程度の接種を予定することになります。

体制としては、医師と看護師と健康観察のスタッフと案内等、全体で医療従事者 96 名、事務職員 54 名で、1 日当たり 150 人体制です。これは、全員市立病院のスタッフが来ます。

（読売新聞）

先ほどラインを増やすというお話しがあったと思いますが、何ラインでやるのですか。

（健康福祉部長）

3 ライン増やします。今 12 ラインで計算しているところ、15 ラインとなります。

（プレス空知）

予約サポートの関係で、先ほど接種希望で予約がまだの方を対象に、会場に殺到しない程度にご自由に来ていただくという説明だったと思うのですが、資料の一番下の所に、予約サポートの日時場所を直接案内しますということでいけば、日時というのは、9 時から 15 時まで空いているからどうぞという案内ですね。

（市長）

6 月の 1 日から 30 日までの間で、土・日・祝日を除く毎日 9 時から 15 時までの間開設していますので、接種を希望される方で、まだ予約ができていない方についてはご都合のいいときにお越しくださいというご案内です。

（プレス空知）

移動手段の確保というところで、遠隔の方に向けてシャトルバスを運行するということですけれども、市内 5 路線例えばどちらの方向を想定しているのかというのが 1 つと、定員が超過した場合は便数を追加してというお話しがあったのですが、バス 1 便当たりの乗員数はどれくらいを

想定しているのかを教えていただければと思います。

（市長）

今バス事業者といろいろと協議しているのですが、こちらからのリクエストは、大型バス、高速道路に使うような大型バスをまず確保してください、それを市内 5 地区、地区は、北村地区、幌向地区、栗沢地区、東部丘陵地域、そして栗沢地区の東部で、大型のバスから地域の人口によってはジャンボタクシーなども使いながら行ってまいりますが､出来るだけ大きなバス､やはり、満員というわけにいきませんし、一定の間隔を置いての乗車になりますので。

運行ルートと運行の時間帯は決めて、地元の町内会にもご説明しているところですが、いくつか停まりますので、そこでピックアップしてご乗車いただきたいということと、ご利用される方が増える可能性もありますので、市のバスを 2 台キープしておりまして、その際にはこちらから増便をして、会場までお運びするということを考えています。また、これ以外にもタクシー利用券をお配りしておりますので、タクシー利用券で来られる方もいらっしゃるでしょうし、ご家族の送迎で来られる方もいらっしゃるかと思いますが、全てシャトルバスをお使いくださいという意味ではなく、多様化しているといいますか、そういったことで準備をしているところです。

（プレス空知）

選択肢を増やすという意味でシャトルバスを用意されるというのはとてもいいことだと思うのですが､例えば高速を走る大型バスは 40 名くらいの人員数なのかなと思うのですが､そこに対してどれくらいの数を想定しているのかなという規模感がちょっとつかめないのですが。

（市長）

高速バスはもっと定員が多いと思いますが、大体乗車定員の半数程度が一応のめどになるかと思います。これには職員も添乗しますので、職員が適切に座席を割り振って、行いたいと思っています。

（プレス空知）

わかりました。あともう 1 点、他の自治体、首都圏なんかでしょうけれども、医師が足りないというところで、歯科医師にも協力をということがあるかと思いますが、岩見沢市は歯科医師の協力というのは必要だという状況には今は陥っていませんでしょうか。

（市長）

現段階では岩見沢市医師会の医師の先生方に全面的に協力いただいているので、そういう状況にはないと考えております。

（プレス空知）

今後はどうでしょうか。

（市長）

接種人数と接種率に関連しますけれども、医師会の先生方での接種回数も伸ばして対応していただいておりますし、今後さらに接種人数が増えるという状況になれば、市立総合病院の上積みをできるかどうかというところから考えて、都会とかそれぞれの地域によっていろいろとあるの

でしょうけれど、基本は医師、看護師、保健師の方で対応していきたいと思っています。

その他

＜質疑応答＞

（読売新聞）

コロナに関連してですが、国からの自治体へのコロナ対策として使える臨時交付金、岩見沢市はもう使っているのでしょうか、それともまだ使っていなくて、こういうことで使うという考えがあるのでしょうか。

（市長）

4 月の臨時会で、確か、今手元に資料がないのですが、国の 3 次補正で措置された 5 億 3 千万くらいだったと思いますが、そのうち約 4 億 9 千万を、接種に関連する費用ですとか、今後感染状況が落ち着いてくればということで予定しているプレミアム商品券の発行事業ですとか、あるいは感染防止対策ですとか、それから飲食店ですが、昨年小規模経営サポート給付金ということで、飲食店に関しては 20 万、10 万、10 万の 3 回にわたって昨年末までに支援させていただいておりますが、4 月からは歓送迎会等も落ちていますので、新年度での経営サポート給付金の予算というものに充てて、今 4,000 万くらいはまだ手持ちであります。これは今後の感染状況、あるいは経済状況を踏まえて、適切に速やかに予算措置をして実行していくということで考えています。全て使ってまいります。

（北海道新聞）

明日にも政府の方から緊急事態宣言の延期ということが正式に決定となると思うのですが、北海道もその対象地域に入っていますし、そういった中でその延期になるということの捉えが 1 点と、今後その延期されることによって地元飲食店を中心に、期間が長ければ長いほど影響も大きくなるだろうと心配されるのですが、岩見沢市として今後支援とか現時点でお考えがありましたら、教えていただければと。あと、市内の公共施設については、延期以降も現状のまま同じ状態でやる方向になるのか、若干その施設の内容によっては現行と少しやり方が変わったりする考えがあるのかどうかというこの 3 点について教えてください。

（市長）

まず緊急事態宣言の延長については、やはり特に新規感染者を減らしていくというのが、何よりも重要ですから、これは緊急事態宣言を延長した上で、しっかり対応していくということが市民生活上も、あるいは経済対策も本丸はもう感染防止対策と言っても過言ではないような状況ですので、そこは岩見沢市としてもしっかり対応していきたいと思っています。

それから、市内の公共施設の利用制限等については、基本は緩和する考え方はないと思っています。当初感染防止と市民生活に与える影響を十分検討した上で市民利用に限るとか、あるいは休止、休館、時間の制限、さらには図書館などでは貸し出しだけに限るだとか、会場での小規模イベントも禁止とか、いろいろ対応しておりますので、今週末にかけて各施設の状況をさらに点

検した上での措置になりますけれども、緩和するということはないと思います。どうしても、人流と感染者というのが強い相関関係にあるのは事実ですから、そういったことも参考にしながら適切に判断していきたいと思っています。

それからもう一点が、飲食店の皆さまに対する支援については、今先ほども申し上げました 4月の臨時会で予算を措置して、今小規模経営サポート給付金の受け付けを行っています。現段階150 事業所くらいの皆さまにお申し込みいただいていて、それは 1 店舗あたり 10 万円ですけれども、昨年は、約 300 件を超える事業所の方々にご利用いただいているということになりますので、まずそれを必要な方には速やかに申請を出していただいて、こちらとしては速やかに給付を行って、処理していくということがまず 1 点、それから、今後さらに長期化するということもありますが、ただ今回、非常事態宣言に伴って、道からの支援金が、昨年に比べるとかなり手厚くなっていますので、1 日あたり 2.5 万円、あと売り上げの減少に応じて最大では 8 万円を超えるくらいですけれども、ありますので、昨年よりはそこは手厚くなっているなという印象は受けています。そういったことも勘案しながら、当然長期化することになれば、必要な予算は付けて、ご支援していきたいと思っていますし、まずは今回の申請を受けている小規模経営サポート給付金をまず申請していただくということを優先したいと思っています。

それから、長期化に伴って融資の問題は避けて通れないと思います。岩見沢市は新年度の予算で、長期のコロナ対策資金の融資の条件を緩和しています。3 年間の無利子と、借り換え運用もできるということにしていますが、さらに、今保証料の助成をどうするかということは既に担当、経済部の方で検討を進めています。やはり事業を継続していく上で必要な融資を受けやすくする、あるいは、融資に伴う負担を減らしていく、また直接入れる給付金については、金額的にはそれほど大きなものではありませんが、道からの支援金に加えて、市も独自でしっかりと支援をしていくということを考えています。

（プレス空知）

ワクチンの関係で、他の自治体で、医療従事者であるということを解釈が違ったようですけれども、首長さんが先行して接種を受けたというケースが報じられていました。医療従事者ではないでしょうけれども、対策本部の本部長として各自治体首長さんが座ってらっしゃると思います。その立場として個人的には先行接種してもいいのかなと思っていたところなのですが、それに対しての市長の所見と今後の対応を教えてください。

（市長）

医療従事者が優先接種というのは当然だと思いますし、その医療従事者というのはやはり直接接種を受けられる方に接する方、医療を業として行っている方、ですから、医師、看護師、薬剤師、歯科医師もそうですし、そういった方々をまず優先するというのがやはり目的だと思っています。私は市長という立場ですけれども、市立病院の設置者という立場はありますけれども医療に従事するわけではないので、それは今後のルールに従って、ちなみに私も今年高齢者になりましたので、高齢者の接種の期間内にとは思っていますが、一昨日に接種券が届きましたけれども、

まだ予約していません。まず今現状で、これだけ6月まで既に予約が埋まっていて、さらに予約を希望される方がかなりいらっしゃるのは把握しておりますので、そういった方々をまず打っていただいて、私は感染防止を個人でも徹底しながら、状況を見て打っていきたいと思っています。

今接種会場で例えばキャンセルもやはり出てきていて、事前に待機リストを作っていますけれども、福祉事業所関係の職員の方、さらには保育士さん、学校の教員など、リストアップを教育委員会にもお願いをして作っていますが、そういった中で廃棄が出ないように対応していますが、そういった状況も踏まえて、考えていきます。私自身は医療従事者として受ける気はありません。

（プレス空知）

昨日時点で接種のキャンセルされた数はどのくらいあったのでしょうか。

（健康福祉部長）

今積み上げはしていないので、後ほどお答えします。

（市長）

キャンセルがないというところはないんですよね。やはりどうしても予定が合わなくなったとか、いろいろなご事情によってキャンセルは出てしまうので、そういったところには、先ほど申し上げた待機リストの中から速やかに来ていただける方に連絡をとって来ていただくと。

どうしてもキャンセルは出ますけれども、予約を取った方にはスムーズに受けていただく、できるだけキャンセルしないで受けていただきたいということと、キャンセルが出た分については、やはり感染リスクの高い事業所にお勤めの方、そういった方を中心にまずは打っていただくというようなことにしていきたいと思います。

（読売新聞）

市の職員のコロナの感染防止に伴う在宅勤務や時差出勤は今どのような現状になっているのでしょうか。

（市長）

各職場で、率については把握しておりませんけれども、勤務の状況に応じて時差出勤をしています。それから、テレワークの関係については、制度運用を今詰めている所で、業務の内容等にもよりますが、できるだけテレワーク導入をしていきたいとは思っています。その際に、システムに対するアクセスの問題がありますので、タブレット等を貸与したうえで、セキュリティを万全にした中で行う、ただ、テレワークの際の勤怠管理、勤務をしているかどうかの管理とか、いろいろな側面もありますので、そういった課題もつぶしながら、テレワークの特にシステムの導入に向けて今進めているところです。

（注）この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。（作成：総務部秘書課広報係）